代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行　医療法人財団東京勤労者医療会　1部60円
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷１―30―７
ＴＥＬ03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

友の会で希望の光を！

代々木健康友の会

第45回定期総会開かれる

前日から降り続いた雨も上がった10月23日（日）、代々木駅前にある全理連ビルで代々木健康友の会第45回定期総会が120人の参加で開かれました。

合唱団バンブーといっしょに全員合唱

小崎征子常任幹事の開会の辞の後、石橋勝会長から、「今年は大震災や原発事故があり、大変な1年でした。民医連の新綱領のもと、共同のパートナーとして代々木病院と力を合わせ、活動を進めてきました。これらの活動は、スライドで紹介する予定です。皆さんの活発なご意見をいただき、2012年度の活動の糧にしてゆきます。皆さんお力添えをお願いします」と挨拶がありました。

続いて来賓を代表して、代々木病院院長井上均さんから挨拶をいただきました。

院長は「この2年半は回復機能医療、リハビリ、在宅医療を中心とした地域医療に舵をとってきました。特に病棟医療、在宅医療は近隣の大病院から多くの患者さんの紹介をいただいており大盛況ですが、地域の方や、友の会の方を優先させていただいております」と話されました。

また3月の東日本大震災と福島原発事故にふれ、「核を廃絶し、平和で国民が主人公の社会や政治を本気で追求しなければならない時代がやってきました。私たち民医連職員は志をともにする友の会の皆さんと平和な社会を追求し、医療や介護を通して、国民の命や人権を守る運動を広げていきます」と力強く述べられました。

フロアーの発言

代々木病院　院長　井上　均

代々木健康友の会　会長　石橋　勝

そして、「その目標に一歩づつ近づくため、友の会の仲間を増やし、いつもと違う成果を上げて私たちの本気度を確かめる年です。積極的に地域に出て、地域の方々を巻き込んだ特別な動きをしていかなければなりません」と訴えられました。

院長は、新たに東葛病院の建て替えが本格的な準備に入っている事を報告し、新捗状況を随時伝える旨と勤医会の将来がかかる大事業のご支援を会員の方々に呼びかけました。

☆

プログラムは総会恒例の小池先生の講演。皆さんがわくわくと期待している様子が伝わってくるようでした。

小池先生の講演内容は「くらしと健康」友の会ページに掲載しますが、小冊子にまとめ、友の会1階カウンターに準備します（12月上旬頃）。

総会は友の会の活動をスライドで紹介する場面に移りました。

☆

議事に入り、清見温子事務局長報告、2011年度決算報告（伊香忠志副会長兼、会計担当部長）監査報告（加藤茂会計監査員）があり、引き続き2012年度予算案、新役員の提案、特別決議案が提起されました。

会場からの発言は活発で、東葛病院の建て替え、障害者自立支援法、在宅医療のことや「くらしと健康」の紙質などについてありました。

事務局長報告は議案の補足を報告。「東日本大震災被災者支援募金は多くの方々から寄せていただき、現地に野菜を届け、『10・30原発なくせ福島』に参加、11月は宮城県にボランティアを派遣する予定です。皆さんの思いをしっかり届けてきます」と発言しました。

120人の方が参加されました

会員さんから寄せられた素敵な言葉を紹介しました。「厳しい世の中だからこそ『友の会』の存在が必要です。存在の輝きが多くの人を照らすように」。

議事進行は、提案に対して一括採択をおこない、拍手で採択され、議事の全てを終了しました。

☆

最後にお待ちかね「合唱団バンプー」の素敵な歌声を堪能し、全員合唱で「東京ラプソディー」を歌い、石井正統新常任幹事の閉会の辞で45回総会を閉会しました。

代々木健康友の会　事務局長　清見温子

代々木病院デイケア　ハートビートコーラス

Heart & Hope Concert

【日時】2011年12月21日（水）
午後1時開場　午後1時30分開演
【場所】自由学園明日館　講堂
お気軽にお越しください

入場無料

お問い合わせはこちら
代々木病院デイケア
直通　03-5411-9579

千駄の萱

今年もあと1ヶ月。だが例年のように10大ニュースを並べ思いにふける気持ちにない。来年に引き継ぐ課題はあまりに大きい。それは未来に責任を持つ覚悟をすることだ▼なくせ原発10・30福島集会には全都道府県から1万を超える人が集まった。「幼稚園の外の遊具で遊びたい」「外でみんなとかくれんぼしたい」五才の子どもの声が胸を締めつけた▼原発建設には札束で自治体の長の、住民の頬を叩き、病弱や高齢世帯を懐柔し、または最後まで原発を隠して強行した歴史ばかりだ。鎌田慧氏は「民主主義を破壊して建設してきたから原発に反対」という▼整理すれば単純なこと。原発を全廃させるか、稼動を認めるか二者択一を歴史は求めている▼第二次大戦後、子どもは大人を「なぜ戦争に反対しなかったの」と追及した。私も親にぶつけた記憶がある▼54基もの原発を許していた私たち。「あんなに大きな事故が起きたのに、なぜまだ原発があるの？」と後世の人たちに問われぬよう、行動を続けよう。（み）